



3年生部会

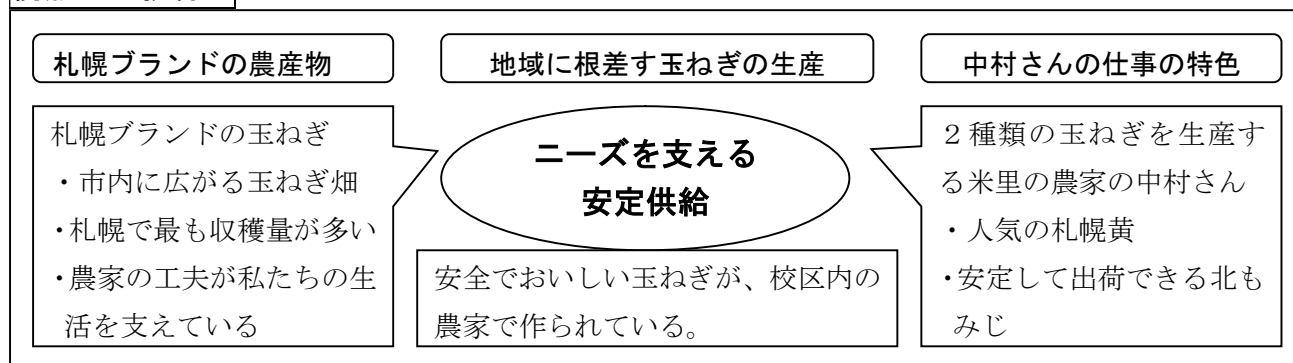
部報



(文責：鵜野)

7月20日、学年部会を米里小学校にて行いました。

視点1 教材化



視点2 単元の問題解決

○身近な地域と玉ねぎのつながりを知り、学習の見通しをもつ

札幌市の農産物No.1 たくさんとれる玉ねぎ	地域に玉ねぎ農家がいる 札幌黄・北もみじを作る	札幌市の玉ねぎ農家ではどのように たくさんの玉ねぎをつくっているの
---------------------------	----------------------------	--------------------------------------

○「中村さん調べ」「玉ねぎ調べ」から、観点を明確にして知識を積み上げる

- ・中村さんの畑に行き、体験を通して具体的に調べる。
- ・2つの玉ねぎの特徴を明らかにする

○玉ねぎを通して米里に誇りをもつ

- ・中村さんの営みを通して、「すごい農家が私たちの地域にいる。」と米里へ愛着や誇りをもてるようにする。

視点2 本時の問題解決

○本時を通して、農家の人たちの営みが、自分たちの食生活を支えていることを実感する

札幌黄と北もみじ両方の玉ねぎを作るという中村さんの工夫が、生産者としての利益だけでなく、消費者である自分たちにもおいしい玉ねぎを安定して届けるよさがあることに気付くことをねらう。

○札幌黄を生産する農家は少数であることから問いを生む

前時までには札幌黄のよさを知った子どもたちに、札幌黄を生産する農家は少数であるグラフを提示し、既習とのずれを生む。そこで、「どうして中村さんは、北もみじだけでなく札幌黄も生産するのだろうか」という問いが生まれる。

○生産者の立場から、両方の玉ねぎを作るよさを捉え、中村さんの玉ねぎ作りの意図に迫る

札幌黄の人気や味、北もみじの安定生産と、両方のよさを捉えていくことで、よさを生かして生産する中村さんの意図に迫る。

○消費者の立場から捉え直すことで、中村さんの工夫が自分たちの生活につながることに気付く

消費者の立場で2つの玉ねぎを作るよさを捉え直し、「選べることで、私たちの生活がより豊かになる。」ということ捉える。中村さんのこうした工夫が私たちの生活を支えていることに気付く。

次回は、8月20日(土) 13:00～ 資生館小学校 夏の学習会です。
 4年生部会との合同部会があります。
 45分ずつ時間があります。